

# ニッケル産業: 今後の規制関連の課題にどう取り組むか

2013年11月28日 東京

## 初めに

ニッケル協会は国連の GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)、規制関連の動向および LCA(ライフサイクルアセスメント)のためのワークショップを開催します。ワークショップでは、科学に基づく意思決定や金属の分類のために国際的な取り組みの重要性を明らかにし、また LCA に関し現在行われている活動を紹介します。

APEC 経済圏は世界の金属鉱物の 70%を生産し、60%を消費しています。APEC 経済圏において、人の健康と環境を守る一方、持続可能な金属の生産と使用を確実なものにするために金属及び合金に対する科学に基づく規制の取り組みが最も重要で必要不可欠です。

## ワークショップの目的

- 国連 GHS のプロセスが、労働衛生と環境管理の分野において有害性の分類とそれに続くダウストリーム関連規制の増加により、ニッケル含有化学物質の使用にいかなる影響を与えうるかまた与えるかについて認識を高めること。分類とそれに続くダウストリーム関連規制は正しい科学に基づく、リスクベースでの取り組みが不可欠です。
- EU の 138 のニッケル含有化学物質の有害性分類に関する APEC の社会経済影響調査の結果について、日本を重点に説明。また、現在 APEC 内で行っている活動の詳細を紹介。  
([http://publications.apec.org/publication-detail.php?pub\\_id=1288](http://publications.apec.org/publication-detail.php?pub_id=1288))。
- 金属ニッケルとニッケル含有化学物質の生産と使用に関係する世界 29 か国(15 の APEC 加盟国を含む)における最新の GHS 導入状況を知る目的で策定されたニッケル協会プロジェクトの成果を報告。このプロジェクトの成果にはこれらのすべての地域におけるニッケル含有化学物質の有害性の分類と表示のための提言も含まれています。
- ニッケルとニッケル化学物質について REACH の状況も含め世界の規制の展開について概要説明。
- 最新の LCI(ライフサイクルインベントリー)と作成中のニッケルのストックとフローモデル、リサイクル及びライフサイクルアセスメントに関する作業結果の報告。

ニッケル協会は、このワークショップが世界の新たな規制状況において金属ニッケルとニッケル化学物質の管理にかかわる問題の重要性を理解する上で大いに役立つものと信じます。正しい科学は分類と表示の基準として重要であり、また一方においてリスクベースの規制措置への取り組みが最も望ましい結果を得るために欠かせません。これはひるがえってニッケルの使用による経済的利益を確実に開拓しつつ、人の健康と環境に必要な保護を提供することになります。日本のニッケル関係者がこの問題をもっとよく理解することは日本の規制当局との話し合いに役に立つでしょう。

### ワークショップの対象

- ・日本のニッケル協会会員会社(住友金属鉱山、大平洋金属、ヴァーレ・ジャパン、JFE ミネラル)：規制プロセスにより影響を受ける様々な事業部門に、GHS や APEC や LCI といった重要な問題に対しニッケル協会がこれまで行ってきた活動及び最近の展開に関する最新情報を提供します。
- ・ニッケルを使用するダウンストリーム及び最終用途関係(例えば日本自動車工業会、電子産業など)：現在進められている、ニッケル及びニッケル含有化学物質に影響を与える規制及び分類プロセスに対してダウンストリームユーザーや主要 OEM の懸念が高まっています。例えば、エンドユーザーからニッケル協会にニッケル塩の将来の使用に関する多くの質問が寄せられています。ワークショップは、ニッケル協会が最新の規制動向及びこうした規制のニッケル産業への影響を最小にし、また管理するために行っている活動について、日本の主要なユーザーに最新の情報を提供する機会です。ワークショップは、環境安全担当マネージャー(分類のあとの規制問題)、調査研究スタッフ(代替の決定)、広報担当マネージャー(自治体関係担当及び今後の日本における唱道活動支援)及びダウンストリームユーザーやサプライヤーとかかわる販売担当の方を対象とするものです。

### ワークショップの構成

ワークショップには 4 つのセッションがあります。第一セッションは、国連 GHS(鉱石、金属及び合金を含む化学品の分類と表示に関する世界調和システム)及びニッケル協会が会員企業とダウンストリームユーザー部門に対し行っている世界 29 か国の GHS 実施状況の把握と管理のための支援活動について。ニッケル協会が新たに制作したオンラインデータベースを使って説明。

第二セッションは、APEC 経済圏にとってのニッケルの重要性及び 2009 年の EU ニッケル化学物質分類に伴う問題について。最近実施された APEC 経済圏のための EU ニッケル化合物分類の社会経済的影響調査の結果を中心に解説。

第三セッションは、主要地域のそれぞれにおいてニッケル及びニッケル含有化合物の分類が、採掘からエンドユースに至るニッケル産業に与える規制面での影響とニッケル協会による規制問題への取り組みについて。

第四セッションは、最新のニッケル及びフェロニッケルの LCI データー及び現在進められているライフサイクルアセスメントの結果を説明。様々な事例を示しライフサイクル全体を通してニッケルが生む利益を紹介。

**ニッケル産業：今後の規制面の課題への取り組みープログラム**

**9:00-11:00: GHS 施行状況とニッケル協会のオンラインデータベース**

9:00-9:15: 開会挨拶(ニッケル協会国際問題及び唱道活動担当部長 Dr. Veronique Steukers)

9:15-9:45: GHS 実施状況とニッケル協会の GHS 関連プロジェクト

(ニッケル協会化学物質管理シニアアドバイザー France Capon)

9:45-10:00: ニッケル協会オンライン GHS データベースの紹介：日本と GHS を中心

(ニッケル協会化学物質管理シニアアドバイザー France Capon)

10:00-10:30: 質疑応答

.....  
**10:30-11:00 - コーヒーブレイク**  
.....

**11:00-12:15: APEC 経済圏と EU のニッケル化学物質分類**

11:00-11:30: EU ニッケル化合物分類の APEC 経済圏に与える社会経済影響調査：経緯と調査方法及び日本にとっての影響(スピーカー未定)

11:30-12:00: APEC 関連活動とケミカルダイアログへのニッケル産業の参加

(ニッケル協会国際問題及び唱道活動担当部長 Dr. Veronique Steukers)

12:00-12:15: 質疑応答

.....  
**12:15-13:00: 昼 食**  
.....

**13:00-14:45: 規制面での問題**

13:00-13:30: 化学物質管理: 規制の展開と金属特定の問題

(ニッケル協会国際問題及び唱道活動担当部長 Dr. Veronique Steukers)

13:30-14:00: EU REACH の教訓：他の地域の化学物質管理制度のために

(ニッケル協会化学物質管理シニアアドバイザー France Capon)

14:00-14:15: 質疑応答

14:15-14:30: 飲料水基準: 日本の最近の重要な規制(ニッケル協会東京事務所長 露口 誠一)

.....  
**14:30-14:45: コーヒーブレイク**  
.....

**14:45-16:30: LCA (ライフサイクルアセスメント)-LCI (ライフサイクルインベントリ  
ー)**

---

14:45-15:30: LCI の最新結果

(ニックル協会 EU 規制問題担当シニアアドバイザー Dr. Mark Mistry)

15:30-16:00: ニッケル含有ステンレス鋼の LCA ケーススタディの結果

(ニックル協会 EU 規制問題担当シニアアドバイザー Dr. Mark Mistry)

16:00-16:15: ニッケルのストック・アンド・フローモデルの作成状況

(ニックル協会 EU 規制問題担当シニアアドバイザー Dr. Mark Mistry)

16:15-16:30: 質疑応答

**16:30-17:00: ワークショップのまとめと閉会**

---

16:30-17:00: まとめと閉会挨拶

(ニックル協会国際問題及び唱道活動担当部長 Dr. Veronique Steukers)